

令和4年度広瀬川における天然アユ遡上調査結果（6月分）

令和4年6月29日
宮城県水産技術総合センター
内水面水産試験場

宮城県水産技術総合センター内水面水産試験場では、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、天然アユの遡上状況を調査しています。本年度の6月分の調査結果は、以下のとおりです。

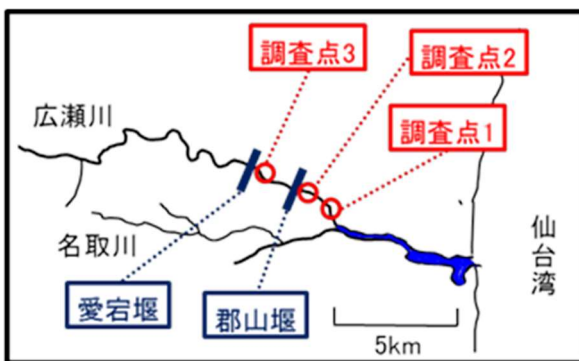


図1 アユ遡上調査地点

(1) 調査点

- 調査点1：名取川との分岐点から500m上流（河口から7.5km）
※6/13は分岐点から2km上流（河口から9km）で実施
- 調査点2：郡山堰下（河口から10km）
- 調査点3：愛宕堰下（河口から11.5km）

(2) 調査実施日

6月13日，23日

(3) 調査方法

各調査点において、投網を10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、1調査点あたり50尾のアユを当场に持ち帰り、体サイズ（標準体長および体重）を測定しました。広瀬名取川漁業協同組合では、調査日以前に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。



図2 調査風景



図3 6月13日の郡山堰

(4) 調査結果

①各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（平成27年から令和元年までの最大値と最小値を除いた平均値及び直近3ヶ年）を図5に示しました。

・調査点1

投網1投あたり6.6尾（6月上旬）、7.0尾（6月下旬）でした。

・調査点2

投網1投あたり32.4尾（6月上旬）、21.4尾（6月下旬）でした。

・調査点3

投網1投あたり7.7尾（6月上旬）、19.4尾（6月下旬）でした。

調査点2（郡山堰下）及び調査点3（愛宕堰下）で平均採捕尾数が例年より多いことがわかりました。今年の5-6月期における国土交通省の広瀬橋観測所の水位を過去2ヶ年の同時期と比較すると、今年は6月期に水位が高かったこと（図6）から、郡山堰の斜路式魚道が十分に機能するなど、アユにとって堰堤を越えて遡上しやすい環境であったと考えられます。

②調査点2で採捕した天然アユの体サイズ

調査点2で採捕した天然アユの体サイズ（標準体長および体重）の平均値を表1に示しました。令和3年及び4年の6月に採捕したアユでは、標準体長及び体重ともに有意な差はありませんでした。

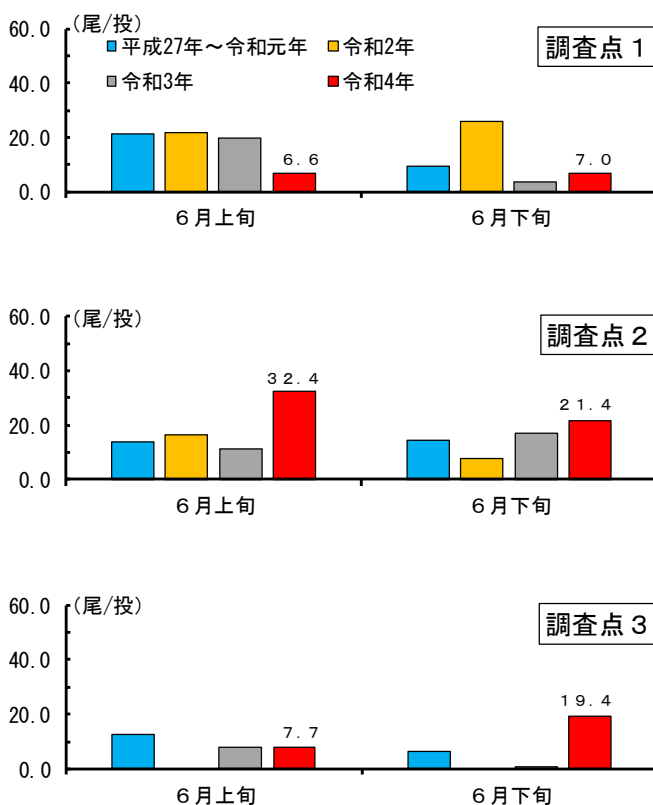


図5 各調査地点における天然アユの平均採捕尾数

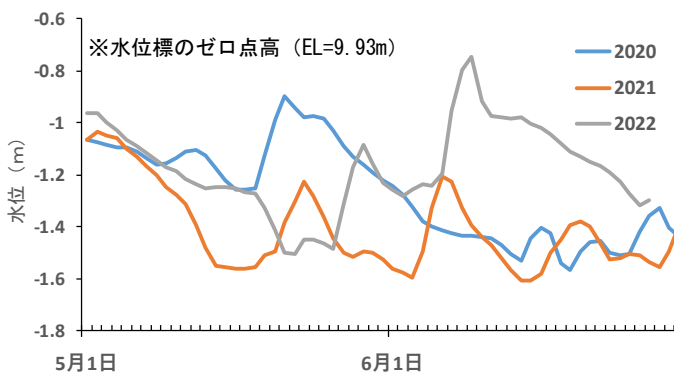


図6 広瀬橋における広瀬川の水位の推移

表1 調査地点2での天然アユの体サイズの平均値

採捕年月	標準体長(cm)	体重(g)	標本数
R3.6	9.5±2.10	13.9±8.44	N=90
R4.6	9.3±2.20	12.3±8.91	N=96

※平均±標準偏差(個体群のパラツキ)